

千年の森便り No.147

2015.10.23

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

9月30日(水) 晴

この日、クロヤツシロランの花探しに入林しましたが、クロヤツシロランは発見できず、残念ながら空振りに終わりました。キノコ類も前週ほどには出ていなくて中休みの感がありました。バカマツタケは禁断の岬方面には見当たらず、ホテイ岬に行く途中の通路脇に5本出ていました。(坂本)



バカマツタケ 9/30

10月3日(土) 晴

この日、短時間ですが豊英島に立ち寄りしました。その目的は、クロヤツシロランの搜索、蚊の襲撃を受けながら探しましたが、ありませんでした。



コスリコギタケ 10/3



ハエトリシメジ 10/3

きのこ観察会が近いので、発生状況はと少しだけ覗いたところ、

バカマツタケ3本(幼菌)、コウタケ2本(幼菌)、サクラシメジ(幼菌・成菌)多数、ウラベニホテイシメジ多数(最盛期)、コスリコギタケ、ハエトリシメジ、オニフウセンタケ、ガンタケ、クサウラベニタケなどがありました。(降幡)

10月18日(日) 晴 秋のきのこ観察会

参加会員は伊藤、鶴沢、大原、久我夫妻、栗山、坂本、田島、中田夫妻と子供達、成沢、福島、藤川、細谷、松田、真鍋、村野、山口の23名、講師は県中央博の吹春先生、そして秋のきのこ観察会ご案内に応じて参加の方々、千葉菌などのキノコ通から全く初経験の方まで多彩な顔ぶれ、総勢49名の大盛況でした。



総勢49名、秋の自然ときのを存分に楽しみました

秋晴れの好天候ときのに恵まれ、講師の分かりやすいお話をじっくり聴き、参加の皆さんは秋の自然ときのを存分に楽しみました。メールでいただいたご感想を6頁に掲載していますのでご覧ください。(真鍋)

○キノコ観察吹春コース

それぞれグループに分かれて、キノコの観察・採取をおこないました。吹春先生のグループは、豊英島に初めて訪れた方々を主に構成されました。千年広場から南へ向かい、シイ・カシ萌芽林区域からマダケ林-ホテイ岬を中心にキノコを探しながらお話を聴きました。シイ・カシ萌芽林区域では、スギなどの針葉樹の落ち葉や落ち枝から生えるスギエダタケや、子嚢菌類であるキンチャウソウタケなど、様々な種類のきのこを見つけることができました。キノコを見つけると参加者から「これは何ですか?」と質問が出され、吹春先生はひとつひとつ丁寧に説明されていました。参加者からは「へえ〜、なるほど〜、〜は食べられますか?」などさらに質問が飛び交い、みなさん興味深くお話を伺っていました。吹春先生の説明を楽しみながらの充実したキノコ観察でした。(成沢)



質問に丁寧に答える吹春先生



質疑多く進行は遅々と

ベトナムから研修中のタオさんは吹春コースを少し離れて、吹春公子さんと一緒に熱心に観察・勉強していました。きのこの名前は和名ではなく学名のような感じでした。(真鍋)

○禁断の岬コース

いつものように禁断の岬周辺のきのこを探索した。まず、いつもバカマツタケが出る崖を探索するが、バカマツタケの香りが無い。丹念に探したところ、すでに腐ったバカマツタケを3本見つけた。残念ながら、時期がちょっと遅かったようだ。その後、岬の先端を北側に回り探索。枯れ木にチシオタケが顔を出していた。小さいので慎重に採取。そのあと、別の枯れ木にハナヒラニカワタケを発見。崖の方に倒れた枯れ木のため、手が届くところまで採取。帰りに岬の尾根をゆっくり登っていくと、尾根のすぐ横に、落ち葉に半分隠れたバカマツタケを発見。その周辺をよく探すと、いつも採れる場所とは違うところに3本と、すでに腐ったもの3本を発見。もちろん採取。ぜひバカマツタケの実物を見たいと話していた方がいたので無事に発見できて良かった～と思いつつながら広場に戻った。(福島)

○吹春講師解説の要旨 (記録：福島、校正：吹春公子様)

胞子の色が白いものから。

ウスヒラタケ：食べられるきのこ。しっかり覚えてください。これに似たヒラタケは、冬のきのこで栽培されている。野生のものは肉厚でおいしい。今昔物語にも出てくるきのこで千年も前から食べられていたことが分かっている。

アカヤマタケ：ヌメリガサ科の代表で他のものはあまり名前がつかない。あまり採れない。全体がロウ質で厚ぼったい。触ると黒くなる。

サクラシメジ：コナラの近くに出る。アズキ色をしていてきれい。あまり美味しくない。

ヒメサクラシメジ：モミの近くに出る。外生菌根菌で樹木と共生している。樹木から炭水化物をもらい、樹木に無機塩類や窒素、水分を供給している。モミの実生に、菌根菌を介して大きな木から養分が送られていることもあるらしい。

スミゾメシメジ：やや黒く変色性がある。

バカマツタケ：マツタケの香りが強い。覚えておくきのこ。ブナ科の広葉樹に出る。千葉にはバカマツタケとニセマツタケが出る。ニセマツタケは褐色で匂いが無い。勝浦の朝市では、バカマツタケとニセマツタケと一緒に売られている。

カキシメジ：クサウラベニタケ、ツキヨタケとともに毒きのこ御三家のひとつ。食べると下痢する。

ミネシメジ：緑色っぽい。傷をつけるとやや赤く変色する。石鹸臭がある。ヒダの幅が広いのが特徴。ちょっと苦味がある。

ハエトリシメジ：カサの中心がとがるのが特徴。うま味＝ハエとり成分が多い。

キシメジ属のきのこ：いつも採れるが名前がつかない。食べた人なし。

フタイロシメジ：色が2色なのが特徴。

チシオタケ：傷をつけると赤い汁が出る。他のクヌギタケ属は名前がつかない。

スギエダタケ：スギの枯れた枝に出る。スギは外生菌根を作らないのでスギ林にはきのこが少ない。

テングタケの仲間：ツバやツボなどのパーツがしっかりしていてきのこを観察するのに良い。

ツルタケ：ツバはなく、深いツボがある。

カバイロツルタケ：カサの表面が樺(カバ)色。

シロオニタケ：テングタケは条線(溝線)の有無で大きく2分される。条線は見えない。カサのトゲトゲは、もともとは外被膜。柄にあるイボイボも同じ外被膜の名残り。

シロコタマゴテングタケ、**クロコタマゴテングタケ**：ツバが黄色味を帯びる。ツボが浅い。

ここから胞子がピンク色系のもの

ウラベニガサ属のきのこ：胞子が角型、カサの裏が肌色。

ウラベニホテイシメジ：カサの表面に絹糸状の繊維模様があり、その中に斑点が出る。食べられるが苦い。

(食べ方の参考、茹でこぼして季節のものと合わせて甘辛く煮る＝房州煮)

クサウラベニタケ：ウラベニホテイシメジによく似ている。味は苦くない。毒あり。

胞子に色がついているもの

ナヨタケ属のきのこ：ヒトヨタケ科のきのこの胞子は黒っぽい。

ニガクリタケ：胞子は黒紫褐色。早い時期から晩秋まで出る。何種かに分かれるらしい。

フウセンタケ科のきのこ：大きいグループ。胞子が錆色。独特なのはクモの巣状の内被膜があること。属名



ウスヒラタケ



スミゾメシメジ



チシオタケ



スギエダタケ

Cortinarius のコルチナはクモの巣膜という意味。千葉では食べている人もいる。名前がつかないものが多い。
オニフウセンタケ：ニューギニアで記載されたきのこ。千葉の森（シイ、カシ林）が、熱帯の島や東南アジアの森、ネパール中腹の森までつながっていることを示すきのこ。

胞子が白いものだが図鑑順だとこの位置

ベニタケの仲間：名前がなかなかつかない。縦に裂けない特徴がある。きのこは糸状の菌糸が束になっているので縦に裂けるが、この仲間は途中で丸い細胞があって縦に裂けず、全体的にもろい。これは黄色い汁が出ているので、もしかしたらキチチタケ。汁が緑色になるのがハツタケ。紫色に変色するのはトビチャチタケ。カサに渦の模様があるとウズハツ。

アカモミタケ：赤い乳液が出る。変色性が殆どない。柄の表面にあばた模様がある。ここからヒダがないきのこ。

コウタケ：カサの裏は針状。香りが醤油臭い。カサの真ん中に深い穴がある。コナラの尾根に出る。

ケロウジ：苦い。カサの真ん中に穴がない。

コウモリタケ：モミに出ることが多い。

ウスタケ：これもモミに出ることが多い。ラッパ状。昔は食べていたが、下痢する。

カノシタ：カサの裏は針状。松林に多い。バター炒めが合うらしい。

ホウキタケの仲間：名前がつかない。千葉では食べている。下痢をするものもある。

ホコリタケ属：割ってみて中が白い時は食べられる。

ハナビラニカワタケ：キクラゲの仲間では食べられる。

ここから子囊菌

クロハナビラタケ：珍しいきのこ。毒がある。クロハナビラニカワタケによく似ている。

キンチャワンタケ：表面から胞子が出る（胞子が飛んだ！）。



ウスタケ



ハナビラニカワタケ



クロハナビラタケ

参加者からの主な質問と回答

Q 千葉にベニテングタケは出るか？

A カバノキ科の林に出るもので、千葉では出ない。ポンデローサマツにも出る。毒だけども食べられている。

Q 触るだけで危険なきのこはあるか？

A カエンタケは触るだけでも危険と言われているが、触っても大丈夫。ただし、傷つけて汁を出したり、かじってはだめ。びらん成分を持っている。

〇きのこ記録（吹春先生の記録） 合計50種

41578	アオゾメタケ？ アカモミタケ	41580	キンチャワンタケ？ クサウラベニタケ	41565	ツルタケ トビチャチタケ
41567	アカヤマタケ アラゲキクラゲ イタチナミハタケ？ ウスタケ ウスヒラタケ ウチワタケ ウラベニホテイシメジ	41564	クヌギタケ属	41566	ナヨタケ属
41584	オニフウセンタケ カイガラタケ	41586	クヌギタケ属	41576	ニガクリタケ(その1)
41570	カキシメジ カノシタ カバイロツルタケ カワラタケ	41583	クロコタマゴテングタケ	41577	ニガクリタケ(その2) ニカワホウキタケ
41585	キヒダフウセンタケ	41581	クロハナビラタケ ケロウジ？ コウタケ	41587	ヌメリアイタケ ハエトリシメジ
		41571	コウモリタケ	41582	バカマツタケ ハナビラニカワタケ ヒイロタケ
		41569	コタマゴテングタケ サクラシメジ シイタケ シロオニタケ	41573	ヒメサクラシメジ
		41574	スギエダタケ	41579	ヒメツチグリ属 ヒロヒダタケ？ フタイロシメジ
		41572	スミゾメシメジ チシオタケ	41575	ミイロアマタケ ミネシメジ
		41568	ツエタケ類		

○野鳥関係

きのこ観察会が盛況で、50名ほどの人が島内を動き回った為なのか、担当者がきのこを探して下ばかり見ていた所為なのか野鳥の記録は低調でした。

カワウ2 トビ声 コゲラ声 モズ声（高鳴き） ハシブトガラス声 ヤマガラ声、シジュウカラ声、ヒヨドリ声 エナガ声 メジロ声 以上10種（坂本）

○センサーカメラの記録から

9月から10月18日の定例観察日までの撮影記録を見るとニホンジカの出現が突出しています。画像の残っている日は9月4, 6, 7, 8, 16, 19, 22, 25, 27 10月5, 6, 8, 12, 13, 14, 16日の計16回でした。その他に自動シャッターは切れているものの画像の無い日が数日ありました。



ニホンジカ 10/16 15:58

センサーがキャッチしてからシャッターが切れるまでのタイムラグがありますから、その間に画角から外れてしまったのかも知れませんが実際には16回以上の可能性が大です。きのこを食べに頻繁に来ていたのでしょうか。

その他にはニホンザルが9月24, 29 ハクビシンが10月3, 7日に写っていました。（坂本）

○動物の糞

島に通じる吊り橋に動物の糞が落ちていたのに多くの方が気づいたと思います。誰の落とし物でしょうか。タヌキ、サル、ハクビシン、アライグマなどが考えられますが良く分かりません。糞の中には柿、アケビの種とその他にも不明な植物の種が含まれていました、この糞を吹春公子さんとタオさんが採集して持ち帰りました。きのこの菌糸が発生するか培養してみるそうです。同時に中央博物館の専門家が糞の主と種子の同定をするそうですから結果が楽しみです。（坂本）



誰の糞？

○昆虫観察記録

虫の声も姿も先月よりも少なくなってきた。鳴いている虫は「〇〇かな?」、飛んでいる虫は「△△かな?」と思うにとどまり、断定できないもどかしさ…。中田家の子どもたちがトゲナナフシを見つけてくれた。子どもたちの目はすばらしい！いつもありがとう！

<p>トゲナナフシ（県要保護生物C） トゲトゲのあるナナフシ。枝に化けており動きは超スロー。野外ではメスしかおらず、単為生殖で産卵とのこと。</p>		<p>オオセンチコガネ ピカピカの赤紫色の虫。ビュンビュン飛び、ブルーシートに並べたキノコにもやってきた。どのキノコがお好み？</p>	
<p>オオヒメヒラタアブ 花にやって来る今日の主役はヒラタアブの仲間たち。成虫越冬で、冬でも暖かい日には見られる。</p>		<p>ビジョオニグモ きれ網を作るきれいなクモ。美女に見えますか？ヒゲ親父に見えますがどうでしょうか？</p>	

(他に観察された昆虫)

ノシメトンボ、アキアカネ、ホソミオツネントンボ、オオアオイトトンボ、モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ、モリオカメコオロギ、タンザワフキバツタ、ホソヘリカメムシ、ツマグロオオヨコバイ、キボシカミキリ、センチコガネ、クロハナボタル、ムモントックリバチ、キンケハラナガツチバチ、コガタスズメバチ（死骸）、ヤマトシリアゲ、ホソヒラタアブ、ルリミスアブ、キタキチョウ、ツマグロヒョウモン（田島）

○ヘビとカエルの記録

中田家の子供達は昆虫やカエルやヘビ探しも楽しみました。智貴君はマムシとヒバカリを発見し撮影しました。成沢さんは千年広場近くでヤマカガシを見つけました。



マムシ 10/18



ヒバカリ 10/18



ヤマカガシ 10/18



アズマヒキガエル 10/18

朱音嬢は4cmくらいのアズマヒキガエルを発見しました。ヤマアカガエルもいました。体長約8㍉。落葉にそっくりで、撮影時に見失いそうでした。(真鍋)



ヤマアカガエル 10/18

○植物観察調査

9月から花を捜索していたクロヤツシロランは花期を終えた蒴果株10数株見つけられました。09年の自生確認から7年目も花を見ることが出来ず、花見は8年目の楽しみに持ち越されました。

森のあちこちにヤブムラサキ、コバノガマズミ、ガマズミなど色づいていました。

解散後千年広場脇にミヤマガマズミに特徴の似た樹が見つかり、持ち帰って精査、樹木鑑定サイトで熱心な議論を経て、ミヤマガマズミではなくガマズミと判定されました。02年夏、県中央博の専門家3名が豊英島を訪問され、広場近くでミヤマガマズミを確認されているので、あると信じて捜査を続けます。



花期終了したクロヤツシロラン 10/18



コバノガマズミ 10/18

(真鍋)

○豊英島にヒル

秋の観察会に参加していた片山さんの2歳半の坊やが、ヒルに吸血されました。片山さんのお母さんは7月の観察会でヒル被害初経験だそうです。服装のヒル対策が必要です。以下片桐さんのメールです。(真鍋)

「実は7月の夏のきのこ観察会で私が足をヒルにやられ、生まれて初めてのヒル吸血体験でした。その後、先日の秋のきのこ観察会で息子が腹部を吸血されておりました。ズボンも靴下も長いのを履いておりましたが、首から入ったのかもしれませんが。本人はけろっとしており、痒いこともないようで、患部もすぐに治ってきました。息子ははじめてのヒル体験を「ヒル、チューチュー、チッチ」とヒルに吸われて血が出たと表現しています。ご心配かけてしまいすみません。というわけで夏秋と親子でやられておりました。装備に気をつけます。片山周子」



先生の熱心な解説に聴き入る大人たち



子供達もきのこを楽しみました



巨大なコウタケをじっくり観察

以下参加の皆さんからメールで寄せられた感想です

豊かで、恵みの多い素晴らしい森で

千葉市千葉寺 橋本ルイコさん

この度ご縁がありまして、千年の森のキノコ観察会に参加させていただきました。ありがとうございました。キノコについて全くの素人ですが、9月から10月にかけて、キノコ強化月間よろしく、毎週のように観察・採集会に参加することとなり、その最後が豊英島でした。

なんと！遠くまで行かなくとも、こんな素晴らしいところが足元にありました(笑)。人との距離が絶妙な森というものは、こんなに豊かで、こんなにも恵みをいただけるものなのかと。またそれは、人側の心持ちひとつで作ることができるのだということが解り、ちょっとした感動でした。鉈をふるってキノコヘラを作る、頼もしい子どもまで育ててくれると(笑)。

みなさまがとても優しくお気遣いくださり、初めての参加でしたが、誠によい時間を過ごすことができました。改めてどうもありがとうございました。

簡単ではございますが、お礼と感想をお伝えしたくご連絡差し上げました。森が千年も万年も続きますよう。

秋のきのご観察会に参加して

千葉市幕張町 佐山昌之さん

10月18日は千葉菌類談話会のメンバー橋本さんと豊英島きのご観察会に参加させていただき、誠にありがとうございました。みなさんの森の自然を守ろうとする自然保護、自然を愛する気持ちがいたるところに感じられ、恵まれた環境の中、とても楽しい時間をすごさせていただきました。

お目当てのコウタケ、ホウキタケも普段見ることのできない程、大きなものであり、恵まれた自然の豊かさを改めて感じさせていただきました。

スタッフのみなさんも、初対面にもかかわらず、気さくに接していただき、送迎中も地域のことを教えてくれて、人の温かさと一緒に感じることができました。大変お世話になり、誠にありがとうございました。

春のイベントもご紹介いただきましたので、是非参加させていただきたいと思います。

憧れのコウタケにも出会え大満足

館山市 長田隆義さん

キノコ観察会ではお世話になりました。転勤で新潟から房総に引っ越したのが今年の4月、新潟とは植生の異なる房総でもキノコ観察を楽しみたいと房総のキノコについてネット検索していて発見したのが今回の観察会でした。憧れのコウタケにも出会え大満足でした。来年は夏の観察会にも参加したいと思っています。またよろしく願いいたします。

楽しい一日でした

勝浦市守谷 渡辺恵一・喜代江さん

楽しい一日を過ごさせて頂き、ありがとうございました。説明も分かりやすく、また詳しい方がたくさんいて凄く勉強になりました。調理方法も詳しく教えて頂きました。開催場所も良いですね。また、機会があれば参加したいです。一緒に参加した中井美幸も含め大満足の日でした。感謝します。

千年の森 2015 秋のキノコの観察会に参加して

松田会員

今年は夏の異常気象の影響か、キノコのシーズンが10日ほどは、早く進んだと思われます。18日の千年の森の観察会も、その様な結果となりました。今年の特徴として、毎年生えるセイタカイグチ、ニセアシベニイグチ等のイグチ科の仲間が皆無でありました。また、コウタケは巨大で、かつ豊作でしたが、食べ頃が10日ほど過ぎていて、誠に残念でした。バカマツタケは時期外れか、2,3本の収穫に終わりました。それでも50を超える種のキノコが観察出来、千年の森の素晴らしさに、今更ながら、感激しております。

お知らせ

○千年の森ホームページの引越し

ちば千年の森をつくる会のホームページの URL が、11月1日から変更になります。
新しい URL は以下のとおりです。お気に入りへの追加をお願いします。

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

○京葉銀行広報誌特集記事

京葉銀行広報誌きずなNo.11、2015 秋冬号に7月20日取材の特集「千年の時を超え行く森をつくる」が掲載されています。京葉銀行各支店の店舗にあります。下記ページでも閲覧できます。

<http://www.keiyobank.co.jp/ir/csr/information/pdf/kizuna11-1.pdf>

取材は「千年の森」の活動状況を的確にとらえ、当日取材に応じた会員および来訪者のコメントもわかりやすく、「千年の森」がイキイキと描かれています。是非ご覧ください。

○次回活動日 11月14日(土)

島内自然観察会、植物調査、野鳥調査、昆虫調査などを計画しています。仮設物置の続きも行います。県民の森駐車場9時30分集合です。

なお、ちば里山カレッジの受講生約40名が、午前中に研修に訪れます。受け入れにご協力をお願いします。

○新入会会員紹介

千年の森さきのご観察会に参加されていた長生郡長柄町の矢代晶子さんが、10月22日、入会されました。千葉菌類談話会の会員です。宜しくお願いします。